

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

No. 271
2018 JANUARY



2019.つながる校友会、
ひろがる立命館

R Alumni

りつめい No.271/2018年1月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行
発行人/村上健治
編集人/加藤美佐子
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
Tel.075(813)8216 Fax.075(813)8217
URL:<http://alumni.ritsumeijp>
E-mail:alumni@st.ritsumeijp



輝くひと
校友会設立
100周年
応援隊

ロックバンド「くるり」
岸田 繁さん('99産社)
佐藤征史さん('99法)

[巻頭特集]

MUSIC IS LIFE,
LIFE IS MUSIC

まだ見ぬ音の世界へ

「楽しかった〜?」

9月23日、「京都音楽博覧会 2017 in 梅小路公園」のエンディングに主宰のロックバンド「くるり」の岸田繁さんが11,000人の観客に問いかけた。

「昔のテレビで観ていた音楽番組のように、すべて生演奏で届けたい」。

京都音楽博覧会11年目の新たな試みとして、京都市立芸術大学卒のメンバーを中心に構成された“京都音博フィルハーモニー管弦楽団”の演奏と豪華アーティストの共演による「生歌謡ショー」が行われた。生音の芳醇さに酔いしれ、興奮さめやらぬ観客は、岸田さんの言葉に鳴り止まない賞賛の拍手で応えた。

「繁くんが『わー!』って歌った瞬間に、それまでなかったエネルギーが音にこもった感覚があった。このまま続けていけるかも、って手応えを感じました」と、くるり誕生の瞬間を語る佐藤征史さん。岸田さんと佐藤さんの出会いは立命館高等学校時代。立命館大学に進学後、2人が所属した音楽サークル「ロックコミュニケーション」で初期メンバーの森信行さんと出会い、1996年にくるりが結成された。メジャーデビューが決まったときは、部室がある学生会館の屋上で「やったー!」と3人で万歳をしたという在学中のデビューならではのエピソードがある。

2016年、くるりは結成20周年を迎えた。振り返るとメンバーと音楽性が変遷した20年であったが、周年はこれまで走り続けてきた中での給水ポイントみたいなもの、と岸田さんは言う。「変わった部分も変わらない部分もあるけれど、常に自分たちがしたい音楽に挑戦してきました。壁を作らず、ノーガード戦法でこれからもトライし続けたいと思います」。

「よく『音楽ジャンルを越えているね』と言われますが、影響を受けた音楽のジャンルやスタイルを拝借して、自分たちらしいものを作るのがくるりのスタイル。世の中には、まだまだ知らないことや音楽があって、それと出会った驚きや喜びをくるりの音で届けられたら」と佐藤さん。

「決まり文句は好きではありませんが……。また来年、京都で会いましょう」。岸田さんの挨拶で、京都音楽博覧会は幕を閉じた。くるりくるりと軽やかに変化をしながら新しい音の世界へと誘ってくれるくるり。次は私たちにどんな景色を見せてくれるのだろう。

文：高原珠美 撮影：平塚正男



ロックバンド「くるり」
きしだ しげる
岸田 繁さん（'99産社）



ロックバンド「くるり」
さとう まさし
佐藤 征史さん（'99法）

輝くひと
103

■くるりプロフィール

古今東西さまざまな音楽に影響されながら、旅を続けるロックバンド。岸田繁さんがボーカル・ギター、佐藤征史さんがベース・ボーカルを務める。1998年に『東京』でメジャーデビュー。2018年2月から3月にかけて全国ツアーが行われる。

詳細はこちら ▶ <http://www.quruli.net/>



立命館大学校友会報

りつめい JANUARY 2018
No.271

03 巻頭特集

MUSIC IS LIFE, LIFE IS MUSIC

02 輝くひと

ロックバンド「くるり」
岸田 繁さん、佐藤征史さん

08 RITSUMEI INTERVIEW

株式会社リットーミュージック
ベース・マガジン編集長
近藤隆久さん

12 立命館の研究者たち

総合科学技術研究機構
正田 悠 専門研究員
「音楽は感情のコミュニケーション」

14 「オール立命館校友会大会2017 in 京都」報告

16 3.11復興への願い
東北応援ツアー参加者レポート

18 校友会未来人財育成基金

20 校友会設立100周年 Road to 2019 vol.07

21 校友会ネットワーク

行事報告
今後の行事予定

Present

アンケートにご協力いただいた方に抽選でプレゼントをお贈りします!



24 学生の活躍

26 キャンパストピックス

29 Club×Circle

30 INFORMATION
編集室から

| 巻頭特集 |

MUSIC IS LIFE, LIFE IS MUSIC

音の芸術に魅せられ、
音楽をライフワークとしている校友たちがいる。
「さあ、扉を開けて。
彼らが奏でる音の世界へようこそ」

文：高原珠美 撮影：津久井珠美





京都生まれの媚びない
ヨーロッパ音楽バンド

インストゥルメンタルバンド

ザツハトルテ

チェロ

ヨース毛さん ('05 産社)

ギター

ウエッコさん ('04 経済)

アコーディオン

都丸 智栄さん ('99 産社入学)

毎月第3日曜日にカフェさらさ西陣(京都市北区)で開催されるザツハトルテの「月例 お食事ライブ」。当日はオープンの2時間も前から聴衆の列ができている。月例お食事ライブは、2002年からスタートし、雨の日も風の日も、台風が直撃した日も、五山の送り火と同じ日で閑古鳥が鳴いた日も、一度も休むことなく行われている。

在学中に「立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどん」で出会った3人。感性も性格も趣味嗜好もまったく違い、今知り合ったならバンドを組まないと言えぬ。「自分がどんな音楽を好きなのか、理解していないくらい若い頃に出会って、家に遊びに行ったりしながら曲を作り始めました。だから、ザツハトルテの音楽はこのメンバーでしかできないと自覚していて。言うなれば家族や兄弟みたいな関係ですね」とヨース毛さん。全国ツアーのときは月に20日ほど一緒にいるときもあるというが、その時間の長さは演奏にも影響し、3人ならではの独特の間合いもできていく。「僕たちの演奏って1曲の中でも結構テンポが揺れるんですが、ずっと一緒にやっているから、ここは速くなるのかな、ここは少し遅くなるのかな、自然と呼吸が合ってくるんですね」とウエッコさんは話す。

これまでにアルバム6枚を制作、オリジナルは80曲を超える。メンバーそれぞれが曲を作るが、作曲方法もタイトルの付け方も三者三様。写真を見てその世界観を表現する楽曲だったり、鼻歌のメロディー先行だったり、あえて曲を連想させないタイトルだったり、ダジャレのタイトルだったり……。共通するのはニューオリンズジャズやブルースなどの「アメリカ」ではなく、ミュゼットやアイリッシュなど「ヨーロッパ」を彷彿させる音作りであるということ、「媚びない音楽」であるということ。「日本のインストゥルメンタルは誰もが聴きやすいように作られていて。全てがとは言わないけれど、売れるためにリスナーに媚びている曲が多いような気がします。バランスが大事なんです。聴いている人が不快にならないくらいの難易度で媚びない曲を作ることを大切にしています」と都丸智栄さんは熱を込める。売れるような曲、泣けるような曲云々……。これらの邪念を一切解放し、自分たちが好きで心地よい音楽を作って、楽しみながら一生懸命演奏する。これがザツハトルテのスタイルだ。

3人が音楽を仕事にしていこうと決めたのは、2004年のこと。フランス最大のアコーディオンフェスティバル「Le Grand

Soufflet」に招聘され、本場で演奏するチャンスを得た。オーディエンスの反応も上々、ヨース毛さんが就職活動の代わりに制作したCD『お茶の間ヨーロッパ』も、予想以上の売れ行きだったという。本場で受け入れてもらえたなら日本でもいけるかも!と自信を付け帰国した3人は、日本のカフェブームやワールドミュージックブーム、ヨーロッパの映画ブームの波にも乗り、プロとして本格的に音楽活動を始めた。

3人の出身地は京都ではないが、ザツハトルテには拠点である「京都」の土地柄も大きく関わってくる。音楽活動を始めてまもなく、毎日別のカフェを巡り、ライブをするカフェライブツアーを京都で開催したが、東京でも同じようにライブができるカフェを探したところ、まったく見つからなかったという。『「出前ちんどん」もそうでしたが、京都には癖がある音楽をする人たちがたくさんいて、それを認め合い、面白がって交流する風潮がありました。僕らが音楽を続けていけるのも京都に住んで、京都で活動をしているからだと思います。東京だと揉まれる環境が違い、業界色に染まって『売れたほうが良いよね、だから売れるための音楽をやろうよ』ということになっただろうし。僕たちにとっては、京都の温度がちょうど良かったんです」とヨース毛さんが振り返る。

別のバンドや舞台などで各自の活動もしているが、3人にとって「ザツハトルテ」は実家であり本家のようなものだという。そこで生み出される音楽は「唯一無二」。「音楽の楽しみ方として、CDで音楽を聴くことやYouTubeなどの動画を見ることで満足してしまうのは、すごくもったいない。生のライブは耳だけでなく、身体で音を感じることができる。そういう楽しみ方をライフスタイルにする人が増えてほしいなと思います」と3人。

ザツハトルテは「京都で生まれたヨーロッパ音楽」と「音の楽しみ方」を伝えに、これからも東へ西へとライブ行脚を続けていく。

PROFILE

京都から発信する、新しくも懐かしいインストゥルメンタル(歌のない)バンド。アコーディオン、チェロ、ギターという、世界的にも珍しい絶妙な組み合わせで、ミュゼット、アイリッシュ、ジプシー・スウィング、クラシック等々、広くヨーロッパの古き良き大衆音楽の雰囲気を取り入れた、彩り豊かなオリジナル曲を演奏。通算1,000回を超えるステージで培われたパフォーマンスに定評がある。

Summer Sonic 08、ap bank fes等のロックフェスティバルに出演、松任谷正隆氏プロデュース「THE 料理 SHOW」の音楽、アフラックのテレビCM「アヒルのワルツ」「持病の歌」のインストバージョン、NHK Eテレ「おかあさんといっしょ」のヒット曲「ドコノキノコ」の作編曲・演奏、同番組クリスマススペシャルへの出演、舞台「素浪人ワルツ」等、各方面で精力的に活動している。
ザツハトルテ 公式ホームページ <http://www.zahatorte.com>

撮影協力:さらさ西陣(P3-5)

公式
ミュージック
ビデオは
こちらから





フォークボーカルユニット |

『一切皆苦』から
あふれる希望と感謝

キッサコ

ボーカル&ギター

薬師寺 寛邦さん (01 経営)

立 命館に進んだのは、暗黙のうちに敷かれているレールに乗るのが嫌だったからです。

そう答える薬師寺寛邦さんは、愛媛県今治市の実家である海禅寺で副住職を務める傍ら、フォークボーカルユニット「キッサコ」のボーカル&ギターとして各地のホールやライブハウス、寺でのイベントなどで音楽活動をしている。

ゆくゆくは自分が寺を継ぐのだらうかと、幼いころから感じていた薬師寺さんだったが、高校生になったとき「このまま宗門の大学に進み、修行をし、実家に戻って寺を継ぐというレールに乗るのは嫌や。意地でも自分で道を切り拓きたい!」と奮い立ち、猛勉強の末、立命館大学へ進学した。両親も合格を喜び、気持ちよく送り出してくれたという。歌うことが好きで中学時代から曲を作り始めていた薬師寺さんは、第一軽音楽部に所属。周りが就職活動一色になった時期には、もっと歌を極めたいと思いつき就職活動はせず、ボーカルのスクールに通い始めた。そこでキッサコの初期メンバーと出会い、音楽活動を本格始動。インディーズで活躍し、2007年にメジャーデビューを果たした。「メジャーデビューは『まさか』と思いましたが、これまでやってきたことが認められて、新たな道が拓けたと感じました」。しかし、インディーズとメジャーのギャップは想像以上だったという。メジャーになるとレコード会社や所属事務所の方針の下での活動になる。周りから言われることに惑わされ、進むべき道がわからなくなった薬師寺さんは、次第に歌詞が書けなくなり、歌うことも苦しくなりました。「それまでやってきたことに対して自信が持てなくて、自分の意見を言えなかったんですね。そのことは今でも後悔しています」と当時を振り返る。デビューから約1年後、メンバーの脱退を受け、キッサコはメジャーシーンから退いた。短い期間ではあったが、一流の作詞家やミュージシャンと共演できたことは大きな財産になったという。そしてこの時期に薬師寺さんの転機となる出来事があった。「あるショッピングモールでのライブ後、年配の方が僕たちに『あなたたちの音楽を聴いて、祖父を思い出したよ。ありがとう』と言ってくださって。そのとき、はっとしました。自分が嫌やと逃げていた僧侶の仕事と、今、自分がやっている音楽活動はそんなに違うのではないかと。法事を通じて故人に想いを伝えることと、音楽を聴いて誰かに想いを伝えること。アプローチの方

法は違うけれど、よく似ていることをやっていると感じました。そこから仏教に興味を持ち、本を読み漁りました」。新しいメンバーを迎え、インディーズで活動していたキッサコだったが、薬師寺さんは30歳になるのを機に仏門に入ることを決意。それまで精力的に音楽活動を行い、活動休止前のライブでは450名を超える観客を動員した。

2年間の厳しい修行の中で薬師寺さんが自分を見つめ、気がついたことは、本当に歌が好きだということと、自分は生かされているということだった。「修行は周りの支えがないと続けることはできません。仕事をしていないのに食事もいっただけで、寝床もあって。でも実は、日常生活も同じで、普段は気がつかないけれど、周りに助けてもらいながら生かされている。周りに感謝することを忘れてはあかん、と心から思いました」。修行を経てから、作る歌も家族や友達、故郷など、ごくごく日常にある大切な存在に向けたものに変わった。また、僧侶として仏教の教えを音楽で伝えられないかと考えているという。「最初の試みは経典の『般若心経』です。『般若心経』は読むだけで五感が整うよう計算つくされたもので、読経するだけでも心が安らぐ効果があるといわれています。さらに心地よく聴いてもらえるよう、音楽とコーラスを重ねて作りました。私は寺に生まれて、ご縁があって僧侶になりましたが、人が生きていくうえで大切にすべきことをみなさんと共有するために、僧侶というフィルターを通して音楽で発信する機会をもらったのかなと感じています」。

薬師寺さんにとって音楽とは何かと聞いてみたところ、「修行の1つかもしれません。曲を作るには自分と向き合うことが必要で、自分を知るための方法でもあります。そして、その歌詞に負けない生き方をしているのかと自身に問い、自分を戒めるものでもあります。バンド名の『キッサコ』は禅語の『喫茶去』が由来ですが、その言葉には『自分と向き合う』という意味が含まれています。みなさんにとっても、キッサコの歌が自身を見つめるきっかけの1つになったらうれしいです」と答えた。

PROFILE

薬師寺寛邦さん、山元サトシさんからなるフォークボーカルユニットで、美しいコーラスワークが特徴。ユニット名の「キッサコ」は、禅語の「喫茶去」が由来で「お茶でも飲んでゆっくりしてください」という意味。薬師寺さんがアレンジした「般若心経 コーラス ver.」はYouTubeにて動画再生数50万回を超え、反響を呼んでいる。
キッサコ 公式ホームページ <http://www.kissako.net>

撮影協力：日照山 海禅寺

キッサコ
「般若心経
コーラス ver.」
はこちらから



BASS MAGAZINE

FOR PROFESSION & AMATEUR BASSISTS

vol. 271

RITSUMEI INTERVIEW
TAKAHISA KONDO

Rittor Music, Inc.
BASS MAGAZINE
Chief editor



RITSUMEI INTERVIEW

点をつなぎ、 広げ、伝えるプロとして

株式会社リットーミュージック ベース・マガジン編集長

近藤 隆久さん
(’00法)

RITSUMEI INTERVIEW >>> Chief editor | TAKAHISA KONDO

株式会社リットーミュージック ベース・マガジン編集長

近藤 隆久さん

2000年 法学部卒業

バンド演奏の中でリズムとサウンドを支える重要な役割を担う楽器、ベース。
日本唯一のベース専門月刊誌である『ベース・マガジン』は
音楽専門出版社のリットーミュージックから発刊されている。
編集長を務める近藤隆久さんに話を聞いた。

[文] 高原珠美 [撮影] 西横太一

リットーミュージックはインプレスホールディングスのグループ会社で、音楽分野専門の出版社です。元々楽譜の作成や販売などを専門にしている会社でしたが、1979年の『キーボード・マガジン』創刊を皮切りに、『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』『リズム&ドラム・マガジン』と各楽器の専門雑誌が作られ、1985年に『ベース・マガジン』が創刊されました。

僕は在学中に就職活動をしておらず、卒業後はとりあえず東京に行ってバンド活動しながら音楽関係の仕事に就ければ良いなと思い、上京。求人雑誌でアルバイトの編集者募集の記事を見つけて、2000年にリットーミュージックに入りました。アルバイトとはいえ、どんどん仕事を任せてもらったので、この期間に編集力を身に付け、鍛えることができました。最初は『ギター・マガジン』を担当し、その後『バッチ』という若者向けの音楽雑誌を担当。しかし、『バッチ』が休刊することになり、そのショックで2003年に一度会社を辞めることに。それからはフリーライターや音楽番組の構成作家の仕事しながら、全国ツアーをしていたロックバンドに参加しました。僕は元々ギタリストだったのですが、バンドで募集をしていたベースに転向。約2年間、フリーランスの仕事と音楽活動を両立した生活を続けていたのですが、2005年に『ベース・マガジン』の前々の編集長に声を掛けられ、再び同社で働き始めました。そのまま居続けて2013年に編集長となり、現在に至ります。



音楽シーンの「今」を刻み込む

雑誌を作るときに大切にしていること、これはベース・マガジン編集部独自の考え方ですが、毎号音楽シーンで起こったことをベースの視点で紙媒体に刻みこむということです。また、この雑誌は初心者からプロフェッショナルまで、音楽レベルもジャンルもさまざまな幅広い読者層ですので、どの層の方が読んでも面白いと思える内容を1号に詰め込んだり、号ごとにメインターゲットを変えたりとバランスをとりながら作っています。音楽プロデューサーやコンポーザーにはベーシストが多いのですが、ベーシストは周りを見渡し、バンドをまとめる能力に長けているからだと思います。雑誌の編集もいろいろなものをまとめ、何かを作り出すという点でベーシストである僕に向いている仕事だなと感じています。



す。もちろん、取材する段階で初めてお会いするアーティストも多いのですが、その方がどのような歴史を歩んできたのかを調べて、感情移入することを自分に課しています。やみくもに褒めるのではなく、人気がある理由を冷静に分析し、すごいと思うところをすごく愛して取材に臨む。そうすると相手も僕のことを理解してくれて、心を開いてくれるんですね。あとは、インタビューされる側に対しては当然ですが、周りにいるスタッフなど、その場に居合わせた人たち全員に意識を向けています。それはライブでのステージングと同じで、周りも巻き込んでインタビューの場を作り上げ、関わっている人たちにどれだけ楽しい場を提供できるか。そんなことを考えながら、何も考え

ていない感じを装って取材をしています(笑)。

プロには共通点がある

父親が同志社大学の法学部卒だったので、その影響もあり漠然と法学部に進むのだろうなと感じていました。高校生までは大阪にいましたが、わが家のルーツである京都にある、硬派でバンカラな立命館大学に行きたいと思い、受験をしました。勉強したい人には勉強させてくれて、課外活動をやりたい人には課外活動をさせてくれるような、真面目な部分と自由な部分を併せ持つ校風にも惹かれました。僕は法学部の国際・比較法コースで、ゼミは薬師寺公夫教授の国際法でした。教授もゼミメイトも、不真面目だった僕を温かく見守ってくれながら、自由にやらせてくれてとてもありがたかったです。サークルは「一部軽音楽部」に所属してロックバンドで音楽活動をしていました。また、6年間、京都の先斗町にある「HELLO DOLLY」というジャズバーでバーテンダーとしてアルバイトをしていたのですが、そこで人の話の聴き方や接し方を会得し、お店にある何千枚ものレコードを片っ端から聴きました。学生の間で今の仕事につながる基本的な素養を全て学べたので、とても大切な時間だったと思います。

人生で一番大事なことは、どれだけ「点」を増やせるかということだと僕は思っています。それは、学生時代から意識していて、点と点がつながれば線になり、3点がつながれば平面に、4点なら立体にもなる。突然、たくさんの点がつながりだして、すごいことが起こる。過去に『ベース・マガジン』の表



学生時代、サークルの仲間とツーリングをしたときの写真(近藤さん：左端、ご本人提供)

編集長の仕事としては、まず雑誌の方針を決めます。そして、4人の部下のマネジメントです。僕は割と放任主義で、編集者一人ひとりがやりたいことをやらしてもらうスタイルですが、1冊にまとめるために4人にどう動いてもらうかの調整は必要です。ゴレンジャーに例えると、アカレンジャー、アオレンジャー、キレンジャーの役はいるから、他のメンバーにはモモレンジャーやミドレンジャーの役を担ってもらおう。集団の中での役割は刻々と変化していくので、うまくいくようにそっと後押しし、それぞれのカラーの配色を調整して雑誌を作り上げていくことが僕の仕事です。その他は、アーティストや音楽レーベル、各メーカーなどとの関係性作りや、『ベース・マガジン』のブランディングとしてのイベントの企画・運営にも携わっています。

特集記事を僕が担当することもあるのですが、インタビューのときは、とにかくその人の心の中に入りこむことに注力しま

紙を飾っていただいたお笑い芸人のレイザーレモンRGさんが実はサークルの先輩だったり、当時は知らなかったけれど同じ時期に立命館にいたということにつながったりと、これまでの出会い全てが今の仕事につながっています。

点と点をつなぐためには、「プロ意識」を持つことが大切です。僕も編集のプロとして仕事をやっていますが、お互いがプロフェッショナルと意識して相手に飛び込んでいくと、まったく違うジャンルでも意外と共通点があることに気づくんです。ただ、編集者というのは何もできない。写真を撮るプロでもないし、絵を描くプロでもないし、デザインのプロでもない。編集者はそこを自覚しながら、「何もできないけれど、こことこの点をつなぐことができるよ」というスタンスで動けば、世界が広がっていきます。ロックバンドRIZEのベーシストのKenKenが「僕は演奏するプロ、近ちゃんはそれを伝えるプロだよ」と言ってくれました。シンプルな言葉なんですけど、本当にそうだと思います。点をつなげて、広げて、伝えることができます。編集者はそのプロだと思っています。

音楽業界にも紙媒体にも未来がある

今後の紙媒体と音楽業界については、僕らにとって大きな課題ですね。音楽業界に関していうと、業界自体が盛り上がっていないとは僕は思いません。Apple MusicやSpotifyなどの音楽配信サービスなどで音楽を聴くようになり、CDで収益を上げることは難しくなりました。しかし、日本のロックフェスティバルの先駆けである「FUJI ROCK FESTIVAL」は2017年で21年目になり、野外音楽フェスティバルのノウハウも確立され、各地で音楽イベントが開かれるようになりました。併せて日本のリスナーも音楽フェスやライブに行く習慣が根付きました。このようにこれまでと違った形で業界を盛り上げていけるのではないかと考えています。紙媒体に関しても、確かに他社の雑誌や書籍の売り上げが落ちているとは思いますが、『ベース・マガジン』に関していうとそんなに悪くない。もちろんそれで安心している訳ではなく、当社の楽器在庫検索サイト「デジマート」や動画などWEB媒体と密接に関わり、連動していくことが今後の課題です。音



楽業界も紙媒体も未来がないとは思っていませんが、それらがなくならないように自分がすべきことをこれからも模索していきたい。僕はやっぱり紙媒体がすごく好きで、紙の時代がまた巡ってくると思っています。『ベース・マガジン』などの紙媒体を大切にしながら、僕自身もこの世界で編集のプロとして残っていきたいと思っています。

PROFILE

株式会社リットーミュージック
ベース・マガジン編集長
こんどう たかひさ
近藤 隆久 さん

2000年立命館大学法学部卒。同年、株式会社リットーミュージックにアルバイトとして入社。その後、正社員となり、2013年から現職。



僕のプレイスタイルが雑誌のカラーに影響してしまうといけなないので、ベースは人前で弾かないようにしています。2014年の『イナズマロックフェス』にはギタリストとして出演しました

音楽は感情のコミュニケーション

演奏心理学は、音楽演奏がどのような特徴をもち、それがいかにして成り立っているのかを明らかにするとともに、演奏という行為の中で演奏者自身がどのような経験をしているのかを探究する研究領域である。

演奏心理学を含む演奏科学を専門としている正田 悠専門研究員は「音楽演奏のゆらぎ」について研究をしている。

解釈で演奏にゆらぎが生じる

一般的にクラシックなどの西洋芸術音楽は「作曲家－演奏者－鑑賞者」のコミュニケーションによって成立するといわれている。つまり、演奏者は作曲者が楽譜に記した情報を音響として表現し、鑑賞者に伝える役割を果たすということだ。「ただし、作曲者が楽譜に示した指示は必ずしも厳密なものではなく、強弱、テンポ、音色などの表現の大部分は演奏者に委ねられている」と正田研究員は言う。

プロのピアニストに、自身の芸術的解釈にしたがってコンサートやコンクールで演奏するように弾いてもらった場合（“芸術的”演奏）と、メトロノームに合わせるかのように淡々と弾いてもらった場合（“機械的”演奏）を比べてみよう。グラフ1のようにテンポの推移を表した曲線のことを「テンポ曲線」というが、もし、この楽曲をコンピューターが演奏したとすると、テンポにゆらぎはなく、横軸と平行な水平線が引かれることにな

る。“機械的”演奏の青線をみると演奏者はかなり正確にテンポを維持して演奏をしているものの、完全に水平な直線にはなっていない。これは演奏者が人間であるからこそ生じる楽器の特性や演奏者の技術的限界、あるいは身体運動の制御に由来するゆらぎだという。さらに“機械的”演奏と比べてみると“芸術的”演奏にはより大胆なテンポの動きが認められ、最も速いところと遅いところのテンポの差が $\downarrow = 64.72$ もあった。これは演奏者が楽譜上に記された音の長さをそのまま機械的に再現するのではなく、時々刻々と変化していく音楽にしたがって、自身の芸術的解釈の下でテンポを操作しているということを示している。また、演奏者は音楽の流れに伴って強弱も表現しており、自身の芸術的解釈に即して強弱をつけることが知られている。このように楽譜上に記された一定の規則性からのテンポ、リズム、音色などの音響特性が逸脱することをアメリカの心理学者カール・シーショア（1866-1949）が「芸術的逸脱」と呼び、これは

後の研究者による「表現ゆらぎ」の研究へと発展した。

他者の存在が演奏に影響する

ステージに上がり、聴衆の前で演奏するとき演奏家は“あがり”のような舞台恐怖や演奏不安だけではなく、独特の高揚感を体験する。では、聴衆がいることによって演奏表現はどのように変わるのだろうか。13人のピアニストにシューマン作曲『トロイメライ』を20人程度の前で演奏（生演奏）と聴衆なしで演奏（リハーサル）してもらい、比較をした。ここでは1人のピアニストの終盤部のテンポ曲線を示す（グラフ2）。生演奏とリハーサルのテンポ曲線の形はかなり類似しているが、全体的な傾向としてリハーサルよりも生演奏のほうが、全体のテンポが遅かったことがわかる。特に矢印で示したフェルマータ部分では、 $\downarrow = 15.39$ という非常に遅いテンポで演奏している。

なぜ、この演奏者は生演奏でテンポ

総合科学技術研究機構
正田 悠 専門研究員

を遅くしたのであろうか。「生演奏は自身の演奏を直接的に聴衆に伝達することができるため、演奏者は楽曲の特徴が聴衆にわかりやすい形で演奏したのではないか」と正田研究員は推測する。『トロイメライ』は「夢みること」という意味であり、歳を重ね、もう取り戻すことができない幼少期の世界への憧れを抱いて作曲されたノスタルジックで穏やかな曲である。この楽曲の雰囲気表現するにはゆっくりとしたテンポで、弱い音を維持して演奏するのが妥当とされている。ピアニストは生演奏場面において、確かにゆっくりとしたテンポで演奏しており、聴衆に向かってこの楽曲の特徴を明確に表すように演奏したことを示唆している。このことを演奏者が意識しているかどうかは定かではないものの、「作曲家－演奏者－鑑賞者」という三者のコミュニケーションの中で「作曲者のメッセージを鑑賞者に伝える」という演奏者の役割は聴衆を前にして演奏するとき、より強く表れるのかもしれない。

人間本来の活動の基盤を明らかに

音楽演奏のゆらぎを特徴づける要因は、演奏者の解釈、他者の存在のほか、楽曲構造、パフォーマンス・プラクティスなどもある。ここで紹介した研究成果はいずれも演奏者が当たり前に行っていることでもある。正田研究員がこの研究に取り組む理由は、演奏のゆらぎを数値化することで演奏者が自身の演奏を客観的に見つめ直すきっかけになったり、「コンピューターに人間らしく演奏させよう」という現実世界への応用につながったりするかもしれないと考えているからだ。また、基礎研究の観点からは「人間が音楽を芸術的・美的なものとして捉え、音楽から実に多様な感情を受け取



[撮影] 中尾 敬都

Profile Haruka Shoda

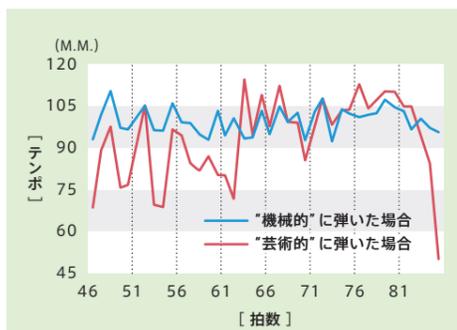
2013年 北海道大学大学院文学研究科 人間システム科学専攻 博士課程後期課程 修了
2010～2013年 日本学術振興会特別研究員DC1
2013～2016年 日本学術振興会特別研究員PD
2013年10月～2014年3月 英国王立音楽大学演奏科学センター ポスドク研究員
2016～2017年 立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員
2017年～ 立命館大学 総合科学技術研究機構 専門研究員

る」ということを、「演奏者がどのように表現したのか」という演奏表現の研究によって明らかにできる可能性を秘めている。「さらに突き詰めれば、言語と違って特定の論理的意味をもたないにもかかわらず、音楽を通して作曲者や演奏者が込めたメッセージを受け取ることが

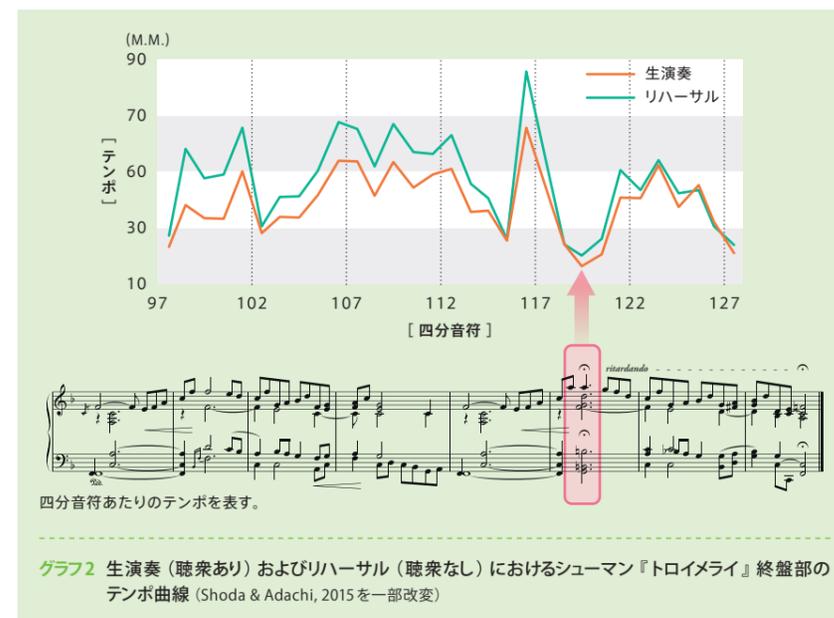
できるという現象から、人間のコミュニケーションの本質を解明することもできると考えています」と正田研究員。演奏のゆらぎの研究から、人間本来の「表現」や「コミュニケーション」といった活動の基盤を明らかにすることができるかもしれない。

音楽的コミュニケーション

作曲家から演奏者、演奏者から鑑賞者への情報伝達
「音楽の構造」「表情」「感情」等が伝達される



グラフ1 ラフマニノフ『絵画的練習曲(音の絵)作品39-1』を“機械的”あるいは“芸術的”に演奏したときのテンポ曲線 (Shoda & Adachi, 2010を一部改変)



四分音符あたりのテンポを表す。

グラフ2 生演奏（聴衆あり）およびリハーサル（聴衆なし）におけるシューマン『トロイメライ』終盤部のテンポ曲線 (Shoda & Adachi, 2015を一部改変)

10月21日(土)、ホテルグランヴィア京都にて「オール立命館校友大会 2017 in 京都」が開催され、延べ2,000名以上の校友が集い大盛況となった。4年ぶりの京都開催となった今大会は、世代を超えて楽しむことのできる企画が多く実施され、全参加者の内、女性が約25%、20・30代校友が約40%を占め、2019年の立命館大学校友会設立100周年へ向けて大きな弾みとなった。

【撮影】竹下さより、津久井珠美



金山裕樹氏 Special Seminar

今大会の最初のプログラムとして、ITベンチャー企業「VASILY」代表取締役CEOの金山裕樹さん('01政策)より、「バンドマンからITベンチャー企業へ、その道のりで見つけた大切なこと」と題して講演が行われた。大学時代のバンド活動、その後の挫折、数々

の困難を乗り越え、ビジネスの世界で活躍している自身の経験をもとに、「起きてしまった現実を変えることができない。しかし、その現実をどう解釈し行動するかで未来を決めることはできる」と力強いメッセージが語られ、参加校友へ困難に立ち向かう勇気が贈られた。



R Future Cafe

立命館×学生×校友 世代を超えて響きあう

お昼過ぎより、焼き菓子を囲み寛ぎながら校友同士や在学生との交流を深める「R Future Cafe」が開催。会場内には、立命館の歴史や各キャンパス(広小路を含む)のジオラマの展示、福島県と立命館大学災害復興支援室による「チャレンジ、ふくしま塾」、校友と学生の交流を目的とした「立命の家」など様々なコーナーが設置され、300名を超える校友がそれぞれ関心のあるブースを回遊し、会場は熱気に包まれた。また、学生ステージとしてマジックやダブルダッチ、チア



リーダーによる演舞パフォーマンスも披露され、会場内に大きな歓声が巻き起こった。さらには、校友同士の交流を目的として、「R 交流ラウンジ」が設けられ、学生時代の思い出、

女子トークといったテーマで、世代を超えて校友同士の活発なコミュニケーションが図られた。懐かしい話から互いの近況報告、将来の夢までアットホームな雰囲気の中、話が進められ、各テーブルで笑顔の輪が広がった。

会場入り口付近では、校友会未来人材育成基金を原資とした奨学金の受給学生による成果発表も行われ、通り掛かる校友は学生たちの発表に熱心に耳を傾けていた。



総会・R Festival

R Music Festival & 立命酒の陣 音楽とお酒の大祭典

総会、懇親パーティー「R Festival」では、校友アーティストによる音楽祭「R Music Festival」、日本全国の地酒が振る舞われる「立命酒の陣」が開催され、会場は音楽とお酒の祭典として大いに盛り上がった。途中、門川大作京都市長も来賓として登壇され、立命館大学応援団による、グレーター立命の演奏と共に乾杯の発声がなされた。

「R Music Festival」では今年6月にメジャーデビューした村上佳佑さん('12産社)が出演、NIVEAブランド2016-2017年CMソング「まもりたい~この両手の中~」が披露され、多くの校友が一度はCMソングとして聞いたことがある歌声が会場に届けられた。



また、5階竹取の間では、卒業50周年記念となる校友を対象とし、立命館大学応援団による全力応援企画が行われ、校友一人ひとりに力強いエールが送られた。

全体での懇親パーティー終了後、2次会企画「R Salon」が開催され、落ち着いた雰囲気の中、全国各地のお酒を楽しみつつ、引き続き校友同士の交流が深められた。



R Aqua Night

夜の京都水族館で 立命館若手校友 限定パーティー!

夜には京都水族館を立命館校友で貸し切りにし、20・30代限定のパーティーを開催。オープニングの乾杯のあと、「立命館限定 夜のイルカショー」も開催され、ダイナミックで可愛いイルカのパフォーマンスに参加者からは大きな歓声が上がった。初めて校友会の企画に参加する校友をはじめ、250名を超える参加者が華やかでロマンチックな夜の水族館を楽しんだ。



2017年度 立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業

東北応援ツアー参加者レポート

東日本大震災で被災した地域の活性、校友による震災学習を目的とした、立命館大学校友会の復興支援事業のひとつである「東北応援ツアー」。本年度も岩手県、福島県、宮城県の3県で実施され、一般校友53名、現地校友30名、関係者21名、総計104名が参加しました。今号では、ツアーに参加した現地校友によるレポートをお伝えします。なお、6年目となる本ツアーは今年度で終了となりました。6年間多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。(復興支援事業の活動は続きます)

2017年度 東北応援ツアー 実施内容	● 岩手県コース	● 福島県コース	● 宮城県コース
	9月9日(土) - 10日(日)	9月30日(土) - 10月1日(日)	11月11日(土) - 12日(日)
	テーマ 岩手県の北部を巡るツアー	テーマ 目には見えない震災被害を学習するツアー	テーマ 防災や震災について学び、海の幸山の幸を食すツアー

福島県コース

見えない被害を見る

今年度の東北応援ツアーは、原子力災害の広がりを感じていただくために、震災、津波、原発事故の現場から遠い会津地方にコースを設定いたしました。

ツアー参加者には、震災以降の被害の実態に加え、明治以来の福島県と発電との長い関係を学んでいただき、福島県と電気の複雑なつながりにも思いをはせていただきました。さらには、風評被害の実態を被害の当事者の言葉で聞いていただきました。複雑化する社会の中で、一面だけ見ても解決しない復興の難しさについてもご理解いただけたかと思えます。

2005年、福島県は「五つの共生」という新しい考え方で地域づくりを始めました。それは、自然環境を大切に、未来の世代への責任を感じながら、子どもも高齢者も障がい者も外国人



郡山布引高原風力発電所。会津布引山の風力発電の風車前にて

会の実現が目標でした。

しかしながら、運転寿命が40年といわれる原発は、一つの世代は潤すものの、後の世代には廃墟だけを残します。原発事故で自然は失われ、三世同居だった家族は避難生活でつながりを切れ、事故保障の格差により、地域のつながりも切れてしまいました。

地球温暖化防止や地球環境保全の観点からも、世代や地域や国境を超えた再生可能な社会づくりが、これからの地球的な課題と



福島県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」



福島県校友会
幹事長
馬場幸蔵さん
(1976年 産業社会学部卒業)

なっています。

時代に先駆けた、持続可能、再生可能で、共生する社会づくりへの福島県挙げての取り組みが途切れてしまったことこそが、一番の「見えない被害」だったのかもしれない。

最後にご覧いただいた会津布引山の33基の風力発電の風車に、福島県民の自然や人と共生する社会を再生して行くという息吹を感じていただければ幸いです。

全国からの参加者のみなさま、ご来県誠にありがとうございました。大変楽しい時間を共に過ごすことが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。



「JA会津つば」で米の全量全袋検査について説明を聞く参加者たち

岩手県コース

日頃から避難場所の確認を!

岩手県コースでは始めに、昨年の台風で大きな被害を受けた岩泉町に向かいました。爪痕が生々しい河原を見ながら、この春復活を遂げた「龍泉洞」へ。

続いて、三陸鉄道の「震災学習列車」。「自分の防災に役立ててほしい」という趣旨のもと、ガイドの方は「悔しいのは地震から津波まで30~40分あったのに逃げない人が多かったこと」など、たくさんの思いをお話しされました。また、絶景ポイントで停車したり、朝ドラ「あまちゃん」の裏話で笑わせてくれたりと、あつという間の70分でした。



「震災学習列車」(三陸鉄道北リアス線)に乗り、三陸鉄道の社員による震災当時の様子や教訓などの話を聞く参加者たち

バスの中では、宮城県校友会の中澤輝博さん('91産社)が仙台空港で津波に襲われた体験を、福島県校友会の村田恭一さん('81法)が原発事故による避難の難しさをお話してくださいました。また宿で行われた勉強会では、岩手県校友会の4名から体験談や思いをお話し、懇親会では三陸海岸自慢の海鮮料理に舌鼓を打ちました。

2日目は、巨大防潮堤を津波が乗り越えた宮古市田老地区へ。壊された防潮堤や津波遺構のホテル跡などを市役所の方にご案内いただきましたが、絶えず質問が飛び交っ



宮古市田老地区の「たろう観光ホテル跡(震災遺構)」



岩手県校友会
成島英史さん
(1997年 文学部卒業)

ていました。なお、道の駅のドーム型集会場「ODENSE」は立命館大学の理工学部のみなさんが建設したものです。

津波を経験されたみなさんは「防潮堤を過信しない」、「逃げる場所を想定しておく」、「躊躇せず逃げる」、「逃げたら戻らない」と、異口同音に訴えていらっしゃいました。

津波に限らず、急峻な地形の日本ではいつどこで災害に遭うかわかりません。まずはご家族で避難場所の確認をしてみませんか?



三陸復興国立公園の代表的景勝地「浄土ヶ浜」

宮城県コース

東北応援ツアー 宮城県コースに参加して

2011年3月11日から6年8カ月。

震災直後は先のことなど何も考えられなかった被災地の人々も、徐々に街の復旧が進み、少しずつ希望の光が見えてきた頃に、復興がこれほど遅れ、震災の記憶がこれほど早く薄れていくことを想像できた人は少なかったのではないのでしょうか。

東北応援ツアーも、第6回を迎えた今年で最後となりました。これまでに多くの校友のみなさんがこのツアーに参加され、被災地の実状に触れて学んでいただいたことに深く感謝いたします。

ツアーの1日目は、南三陸町での被災地見学と気仙沼向洋高等学校 教諭の岸貴司さんに



教諭 岸貴司さんの講演を聞く参加者たち

よる講話、河北新報社の記者で校友でもある大泉大介さんによる講話、校友の木村長門さんが経営する水産会社の再建された工場の見学と講話、経営する笹かま工場と自宅が流失した校友の佐々木靖子さんのお話を聞く宿泊先での勉強会。2日目は、日本三景のひとつである松島の被災状況を船上から見学、集落がまるごと波にのまれた名取市閑上地区の見学と語り部による講話でした。どれも1つひとつの言葉に重みがあり、印象に残るものばかりでしたが、その中のいくつかをご紹介します。

「生と死の岐路があり、それらは紙一重」
(関ささ圭 佐々木靖子さん ('76文))



木の屋石巻水産。震災後、工場の瓦礫の下から掘り起こし泥をぬぐった当時の伍詰



宮城県校友会
中澤輝博さん
(1991年 産業社会学部卒業)

「防災意識を高めることはもちろんだが、一番重要なのは実際に行動に移すこと」
(関河北新報社 大泉大介さん ('95 国関))

「『泥がついたままの伍詰でいいから送ってくれ』という言葉が社員の意識を変えた」
(関木の屋石巻水産 木村長門さん ('77 経済))

「私にとって大切なものは『家族の思い出』『人とのつながり』『ひまわり』『時間』『閑上の記憶』の語り部 佐々木清和さん

「『震災後』はない。あるのは『震災前』か『震災間』のみである」
気仙沼向洋高等学校 教諭 岸貴司さん



「閑上の記憶」



羽ばたく学生に支援の輪が広がっています

「校友会未来人財育成基金」を活用した「+R校友会未来人財育成奨学金」が支給され、受給学生たちは様々な活動を通じて羽ばたいています。また、地域ブロック単位での募集推進活動も展開され、支援の輪が広がっています。

+R 校友会未来人財育成基金 活用報告 海外留学への踏み出し支援

今年度から校友会未来人財育成基金を活用して新たに支援を始めた、「グローバル・フィールド・ワークプロジェクト」のベトナムコースの現地プログラムが実施され、村上健治校友会会長が視察しました。

このプログラムは学部を越えた仲間グループ・チームを編成し、自分たちで決めたテーマで現地で調査活動を行い、異文化・多文化を体感し、これからの「ものの見方・考え方」のヒントとなる経験することを目的としています。これまでにない新しい海外留学プログラムであり、他のプログラムと違って英語などの語学要件はなく、参加者の多くは海外未経験者です。ベトナムとマレーシアコースをあわせた本プログラム参加者60名全員に、+R校友会未来人財育成奨学金が支給されています。

現地での調査活動は9月11～15日の5日間にわたって実施されました。30名の参加学生が各3名のグループに分かれ、各グループにホーチミン市人文社会科学大学の学生1名が加わり、食文化、多宗教社会における相互尊重、歴史の多角的考察等の様々なテーマで調査活動が行われました。参加学生は、バイクが縦横無尽に行き交う市街の喧騒に圧倒されながらも、現地での新たな発見や体験を求め、時間を惜しんで街中を歩き回っていました。



プログラム3日目の夜には、現地サイゴン校友会と参加学生との懇親パーティーが開催されました。村上会長が、「国内外の多くの先輩が学生の成長や母校の発展に



励まされていること、未来人財育成基金による支援の輪を拡げていくために尽力していること」などを学生に向けて紹介しました。サイゴン校友会のみなさんからは、迫川敏明会長を始め参加した12名全員から、自己紹介とともに現地に駐在するに至った経緯や現地での経験、学生時代をどう過ごすか、今後の進路選択などについてのメッセージが送られました。参加学生からも先輩の校友に質問が出され、熱のこもったアドバイスを真剣なまなざしで聞き入っていました。

「グローバル・フィールドワーク・プロジェクト」事後講義に 校友会未来人財育成基金募集推進特別委員が参加しました

9月24日(日)にびわこ・くさつキャンパス(BKC) ローム記念館の大会議室において、「グローバル・フィールドワーク・プロジェクト」事後講義が実施されました。

事後講義では、ベトナムコース、マレーシアコースの参加学生による発表が行われました。学生は前日からBKCのセミナーハウスに泊まり込みし、資料や動画を準備、当日の発表の練習をした上で本番に臨みました。

プロジェクトのテーマである「グローバル」とは何か?について自問自答したこと、「現地を肌で感じる意味」や「主体性・積極性・コ

ミュニケーションの重要性」、「差異でなく共通点を見つけ、相互理解する必要性」など、多くの刺激や気づきを得て意識が変化したこと、今後につなげようとしていることが、英語や日本語で発表されました。

また、奨学金がプロジェクト参加の大きな後押しとなったことなど、校友会への感謝が述べられました。会場には校友会未来人財育成基金募集推進特別委員も出席し、激励の言葉や校友会としての未来人財育成基金の取り組みへの想いが伝えられました。



+R 未来人財育成基金を力強く募集推進する地域ブロックの活動

「九州・沖縄ブロック 会長・RFS・RFSリーダーズ会議」が、8月26日(土)に熊本県民交流館パレアにて開催されました。九州・沖縄ブロックの全県校友会から会長を始めとする役員、次代を担う若手・女性校友の参加があり、本部からも村上健治会長、校友会未来人財育成基金募集推進特別委員会(以下、特別委員会)役員、事務局等の計43名が参加しました。

会議は地域ブロックにおける募集推進の牽引役であるRFSリーダーの飯田俊之熊本

県校友会事務局長により進行され、冒頭に熊本県校友会の隈部幸一会長、本部の村上会長、特別委員会の林幸雄委員長による挨拶がありました。

続いて、本部事務局から未来人財育成基金の募集推進状況と活用プランが報告され、その後、地元熊本県出身の戸上雄揮さん(法2)が、熊本での震災復興の活動や、未来人財育成基金の支援を受けて行っている、熊本の未来を若者が創る「くまもと若者会議」での取り組みについて発表を行いました。具体的な内容とともに、活動を通して感じた「立命館」でつながる縁の重要性、素晴らしさ、後輩支援を循環にする文化への共感が語られ、参加校友たちは聞き入っていました。



戸上雄揮さん

それから、昨年からの九州・沖縄ブロックの約1年間の支援実績と、各校友会における募集推進の取り組み状況の発表がありました。その内容を踏まえて来年の会議までに「継続寄付者」を何人拡大するかについて目標を定めることとなり、各校友会から具体的な数字が掲げられました。会議の最後に特別委員会の福元寅典担当副会長から、「未来人財育成基金の取り組み、各県の強みを活かせる機会、母校のために引き続き協力して欲しい」とエールが送られました。



募集要項

■ 寄付の金額

- (1)個人・団体(校友会などの任意団体)の場合
ひと口1,000円からご支援いただけます(一括寄付と継続寄付[毎月・年2回・毎年]のどちらも可能です)。
- (2)法人の場合
ひと口の金額は特に決めておりません。

■ 募集期間

期間に定めはありません。

■ 寄付の目標

継続寄付者3,000名・累計10億円。
(2012年～2020年3月31日)

■ 活用プラン

海外留学支援、成長支援、課外活動支援、研究支援、施設整備支援。

■ 税制上の優遇措置について

本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

申込方法

① WEBで申し込む

立命館大学校友会のホームページよりお申し込みください。簡単な手続きで完了いたします。クレジットカードにてご寄付いただけます。



携帯電話からのアクセスはこちら!
<http://gift2r.info>
*一部機種によってはご覧いただけない場合がございます。



② 書面で申し込む

校友会事務局に資料をご請求ください。銀行振込・口座振替・現金にてご寄付いただけます。

お問合せ先(受付時間 土日祝を除く 9:30～17:00)

校友会未来人財育成基金に関しては

寄付の受入れ、税制上の優遇措置に関しては



立命館大学校友会事務局
075-813-8216



立命館 総務部 寄付事務局
075-813-8110

volume 07

校友グループの多様性

地域、職域、学科・ゼミ、サークルOB・OG、卒業年次etc。
校友会には卒業後にも集える大小様々なグループが登録されている。

■戦前期の校友同士の結びつき

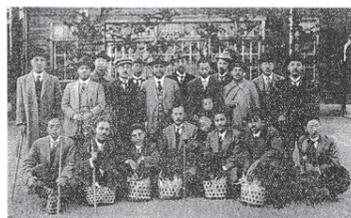
京都法政学校が初めての卒業生を送り出した1903年以来、校友同士の親睦会が各地で開かれていた。1919年に全国校友会が組織されてからは、こうした会は地域別に支部として再編され、現在の都道府県校友会、海外校友会へと発展していく。一方、卒業年次や学科、職域など居住地とは異なる属性での集まりもあった。

第一期卒業生の会である清明会は1914年に結成されており、後に全国校友会の幹事や評議員となる西村七兵衛、奥村安太郎、永澤信之助らが名を連ねている。全国校友会の組織以降は卒業後数年で同期会が結成される傾向にあり、中でも一国会(第19回卒業生の会/1924年結成)は、年に数度の例会や記念植樹を行なうなど活動が盛んであった。

また、協和会(第18回経済科卒業生の会/1920年結成)や黎明会(第21回法律科卒業生の会/1923年結成)など学科別同期会の結成も相次いだ。

昭和に入るとさらに細分化が進み、昭二会(第25回専門学部経済科卒業生京都在住者の会/1929年結成)や土曜会(第23回卒業在阪同期会/1931年結成)のような、居住地の要素も加わっていく。

立命法曹会(1924年結成)や立命弁理士会(1932年結成)といった専門家のネットワークや、京都府・京都市に奉職した同期校友による清和府市会(1928年結成)など勤務先を基盤にした集まりもこの頃から見られる。



立命法曹会の松茸狩

これら個々の会の活動は、『立命館学報』や『立命館学誌』の校友会欄を通じて都度報告されていた。

■校友会におけるグループの多様化

戦後、校友会が活動を再開したのは1949年。これと前後して各県でも支部再建の動きが広がり、1952年に会報『立命』が創刊されてからは、卒業年次や職域の会の動静も誌面を賑わすようになる。その多くは小規模な同窓会であったが、中には電電公社校友会(1959年結成)のように会員250名を超える職域の会もあった。また組織の性格も様々で、宇治久世分会(1960年結成)や大阪府庁校友会(1963年結成)など都道府県支部の下に分類されるものはあっても、校友会における位置づけは定まっていなかった。

校友会が正規の登録団体としてこれら諸会の把握に乗り出すのは、母校の志願者数が急増する60年代後半に入ってからである。1965年発行の『立命』25号には、後にウリ同窓会と改称する朝鮮人同窓会(1952年結成)が地方支部とともに紹介されている。他の支部は都道府県や沖縄、台湾といった地域単位の組織であり、これとは異なるカテゴリーの会が支部一覧に並ぶことは異例であった。さらに1967年発行の『立命』27号からは支部一覧に続いて職域・グループ名簿の欄を設け、職域やサークルOB会など自発的に取り組まれていた10の校友組織を紹介。朝鮮人同窓会も改めてこの区分に分類された。同誌には、さらなるグループの結成と本部への登録を呼びかけるコラムも掲載された。母校の発展に伴い、多様化する校友の組織化を意識したものであった。これに応え様々な共通項をもった校友同士の結集が進み、やがて学部単位の校友会の結成をも促していった。

2017年現在、校友会に登録されているグループは約600。在学中からの親交を発展させたものから、卒業後の共通項をもとに新たに出会うものまで、顔の見える関係で集う校友グループの存在は校友会の組織強化の決め手であると同時に、校友会に多様性をもたらしている。



行事報告

2017年7月下旬～10月下旬に行われた各団体の行事の一部を紹介しています。
*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<http://alumni.ritsumei.jp>

都道府県校友会 / 海外校友会

7/30

静岡県校友会 総会

89名 ｸｰﾎﾟｰﾙ会館



8/5

兵庫県校友会 新人歓迎会&異業種交流会

70名 風月堂ホール



8/5

沖縄県校友会 総会

23名 ホテルロイヤルオリオン



8/26

岡山県校友会 総会

160名 アークホテル岡山



8/26

熊本県校友会 総会

85名 鶴屋百貨店カーネーションサロン



9/2

福島県校友会 総会

43名 LT WEDDING AND PARTY EMPORIUM



9/2

大阪校友会 総会

308名 太閤園



9/2

島根県校友会 総会

43名 サンラボーむらくも



9/2

広島県校友会 65周年記念総会

140名 ホテルメルパルク広島



9/9

新潟県校友会 総会

90名 アートホテル新潟駅前



9/30

宮崎県校友会 総会

40名 ホテルメリージュ



10/7

サイゴン校友会 総会

25名 ホテルニッコウサイゴン



10/15

茨城県校友会 総会

35名 三の丸ホテル



10/21

京都校友会 総会

45名 ホテルグランヴィア京都



10/21

兵庫県校友会 総会

40名 ホテルグランヴィア京都



学部・学系校友会

10/14

数物会 総会

100名 びわこ・くさつキャンパス



NEWS!

100周年応援隊に
くるりのお二人が
就任しました!

立命館大学の音楽サークル「ロックコミュニティン」にて結成し、在学中にメジャーデビューを果たした「くるり」。そのオリジナルメンバーである岸田さんと佐藤さんに、校友会設立100周年応援隊に加わっていただきました。お二人からのメッセージは、特設サイトにてご覧いただけます。

校友会設立100周年応援隊
くるり
左・岸田繁さん('99産社)
右・佐藤征史さん('99法)



検索 立命館 校友会 100周年



10/22
機友会 総会
60名 びわこ・くさつキャンパス



地域校友会

9/2
東武ライン校友会 総会
18名 やまや新館



9/2
オール立命館筑後会 総会
52名 久留米ホテルエスプリ



9/10
立命館湘南クラブ ブランチ会
20名 レストラン メルヘン



9/30
高槻島本校校友会 総会
80名 アンジェルデ・マリアージュ



9/30
大阪いばらき立命会 総会
65名 茨木スカイレストラン



10/28
北摂校友会 総会
60名 千里阪急ホテル



10/29
奈良県校友会北和立命会 設立総会
100名 奈良ロイヤルホテル



職域校友会
7/29
行政書士大阪立命会 29年度交流会
20名
大阪いばらきキャンパス (ガーデンテラスライオン)



8/25
兵庫県庁清和会 総会
33名 萬壽殿



8/26
立命館学園会計人会 第30回記念総会
50名 京都ホテルオークラ



9/12
京都市役所校友会 総会
180名 京都ロイヤルホテル&スパ



9/30
建設会京都支部 総会
150名 京都タワーホテル



10/12
Rits不動産ネットワーク 総会
64名 京都ホテルオークラ



10/20
愛知県建設会 総会
45名 名鉄グランドホテル



10/27
岐阜県建設会 総会
32名 ホテルリソル岐阜



サークルOB・OG会

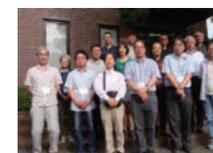
8/26
憲法研究会OB会 総会
14名 西陣魚新



8/26
新演劇研究部OB会 総会
6名 青冥



8/26
物性物理研究会OB会 総会
16名 末川記念会館



10/14
COSMEDIA 長月会
18名 末川記念会館レストランカラム



10/14
立命館大学体育会少林寺拳法部
創立55周年記念式典
140名 京都平安ホテル



10/15
釣り同好会 (RFC) OB会
10名 ホテルモントレ大阪 随縁亭



その他の会

9/3
百万遍寮寮友会
30名 石長松菊園



10/15
立命館スポーツフェロー
吉田美喜夫総長を囲む集い
~森島朋三理事長ご就任のお祝いと合わせて~
250名 ANAクラウンプラザホテル京都



附属校

10/28
第106期立命館清和会 総会
590名 ウェスティン都ホテル京都



立命館大学サイゴン校友会が
記念総会(第100回懇親会)を開催!

発足当初から長きにわたり、会の発展に寄与された、迫川敏明会長の勇退にあわせて、過去最多となる約30名の校友が集まり、森島朋三理事長、小野守通副会長、近隣のインドネシア校友会の荒井芳二会長の参加のもと、盛大に開催されました。



TOPICS

「杜の都駅伝」、
一丸となって応援!

10月29日(日)に第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)が仙台市内で行われました。雨ふりしきるなか懸命に走る選手を「オール立命館校友大会2018in仙台」の開催ブロックである北海道・東北8校友会の校友、父母、大学教職員、学生他総勢約100名で応援しました。



TOPICS

今後の行事予定

2018年1月~2018年2月に予定されている総会です(判明分)

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<http://alumni.ritsumei.jp>

校友会・グループ	日程	会場	問い合わせ先	
北海道校友会 総会	1/27(土) 16:30	ホテルライフオート札幌	中川 均	090-8909-1280
東京校友会 総会	2/18(日) 11:00	明治記念館	東京キャンパス	03-5224-8188

SPORTS

スポーツ
問い合わせ先：スポーツ強化センター
077-561-3977

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

水泳部

競泳オリンピックメダリスト
松田丈志さんによるスイムレッスンを開催

8月2日、びわこ・くさつキャンパスで、BKCスポーツ健康コモンズプール開設記念イベント「競泳オリンピックメダリストの松田丈志さんによるスイムレッスン」を開催しました。

イベントには、体育会水泳部競泳部門の学生と立命館高校水泳部員ら60名余りが参加し、松田さんから指導を受けました。

憧れの存在である松田さんからの直接指導は、学生・生徒たちにとって貴重な経験となり、競泳への意欲をさらに高める機会となりました。



少林寺拳法部

「2017年少林寺拳法世界大会 in カリフォルニア, USA」で世界一を獲得

7月29日からアメリカで開催された「2017年少林寺拳法世界大会 in カリフォルニア, USA」の単独演武男子級拳士の部で、少林寺拳法部の岩本宗也選手（経済3）が優勝しました。

4年に一度開催されるこの大会には、日本からは各部門3名が出場。岩本選手は、前年の全国大会3位で出場権を獲得。競技を始めて僅か2年ながら、空手で培った経験を生かし、見事、世界の頂点に立ちました。



岩本選手（左）

野球・女子陸上短距離・太極拳

「第29回ユニバーシアード競技大会」で学生が活躍

8月18～30日の13日間、台湾で熱戦を繰り広げた「第29回ユニバーシアード競技大会」で、本学から日本代表として出場した選手が金

メダル1つと、2つの銅メダルを獲得する活躍を見せました。

野球には、硬式野球部の東克樹選手（文4）と辰己涼介選手（産社3）が出場し、投打で金メダルに貢献。陸上競技では、女子陸上競技部の壹岐いちこ選手（スポ健2）がアンカーを務めた4×100mリレーで快走を見せ、銅メダルを獲得。武術太極拳競技の南拳・南棍総合では、朝山義隆選手（産社4）が3位と気を吐きました。



松尾/アフロスポーツ、月刊陸上競技提供

女子陸上競技部・男子陸上競技部

日本インカレで女子総合2位

天皇賜盃第86回日本学生陸上競技対校選手権大会（女子第69回）が9月8～10日の3日間、福井運動公園陸上競技場（福井県）で行われ、2年ぶりの総合優勝を目指した女子が2位（58点）、トラックの部では優勝した日本体育大学を抑え1位となるなど力走。また、前回26位の男子は14位という結果でした。

個人では、女子400mハードルで王子田萌選手（スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程2回生）が58秒28でインカレ初タイトルを獲得したのをはじめ、女子10000m競歩で河添香織選手（政策4）が昨年に続き2位。女子4×100mリレーもチームベストの45秒29（大学別学生歴代10位）の好タイムで2位に食い込んだほか、4×400mリレーでも粘り強いレースで2位と健闘しました。

男子では、走高跳で藤田深太郎選手（スポ健2）が自己タイ記録の2m18を跳び2位、400mハードルでも井上駆選手（スポ健4）が3位と気を吐きました。



月刊陸上競技提供

「第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」昨年の雪辱ならず、3位

10月29日、仙台で「第35回全日本大学女

子駅伝対校選手権大会の都駅伝」が行われ、2年ぶりの優勝を狙った女子陸上競技部は3位に終わりました。スタート前から混戦が予想された今大会。降りしきる雨のなか26校がスタートし、立命館大学は1区を11位で通過、2区の佐藤成葉選手（経済2）が区間賞となる走り9人抜き、2位まで順位をあげ、トップと15秒差でたすきをつなぎました。3区を接戦の末3位で通過し、4区では田中綾乃選手（スポ健2）が区間賞を獲得、ついにトップに立ちました。しかし、5区で3位となり、最終区6区でも追い上げ及ばず、立命館大学はトップと1分31秒差の3位でフィニッシュし、昨年の雪辱を果たすことはできませんでした。



月刊陸上競技提供

硬式野球部

プロ野球ドラフト会議
硬式野球部の東克樹選手が
横浜DeNAベイスターズから1位指名

10月26日、2017プロ野球ドラフト会議が開かれ、硬式野球部の東克樹選手（文4）が横浜DeNAベイスターズから1位指名を受けました。

衣笠キャンパスに設けられた会見場で、硬式野球部の本郷真紹部長、後藤昇監督と共にテレビモニターを通じ、じっとドラフト会議の行方を見守った東選手。1巡目で横浜DeNAベイスターズから指名を受け、名前が読み上げられると、会場から大きなどよめきの声が上がりました。単独指名を受けた直後は緊張した表情を崩さなかった東選手でしたが、球団から電話を受け初めて笑顔を見せ、「今はすごくホッとした気持ちです」と1位指名を受けた感想を話しました。



野球部員らに胴上げされる東選手

CULTURE/ART

文化・芸術
問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

かるた会

「第24回全日本大学かるた選手権大会」準優勝

競技かるたの大学日本一を決める「第24回全日本大学かるた選手権大会」が、8月12・13日の2日間、滋賀県大津市の近江神宮などで行われ、かるた会が団体戦準優勝、個人でも大学代表の部で田中高久さん（文3）が3位という好成績を収めました。会長の渡邊千尋さん（産社3）は、「昨年3位に終わった団体戦で優勝することを目標に練習してきました。結果は法政大学に敗れ準優勝でしたが、チーム一丸となって戦えた胸を張って言える大会でした」と振り返りました。



応援団吹奏楽部

「第67回関西吹奏楽コンクール」金賞受賞

8月20日、全日本吹奏楽コンクール出場を決める「第67回関西吹奏楽コンクール」が兵庫県姫路市の市文化センターで開催され、応援団吹奏楽部が金賞に輝きました。しかし、2010年以来となる全日本吹奏楽コンクールへの出場は、惜しくも叶いませんでした。普段の演奏会とは違う緊張感のなか、自由曲にJ. マッキー作曲の交響曲「ワイン・ダーク・シー」を選曲。息の合った音色を披露し、客席からはたくさんの歓声と拍手が送られました。



将棋研究会

「富士通杯争奪 第13回
全国大学対抗将棋大会」で3連覇

9月8～10日、「富士通杯争奪第13回全国大学対抗将棋大会（以下、富士通杯）」が富士通

くわしくはホームページで! <http://www.ritsumeit.ac.jp/sports-culture/>

リューションスクエア（東京都）で行われ、将棋研究会が頂点に立ち、見事3連覇を達成しました。

富士通杯は、日本将棋連盟が主催する全国大会で、各地区の代表10校が総当たりで戦います。関西地区代表として出場した将棋研究会は、強豪を次々と撃破し全勝優勝。会長の川又祐斗さん（政策3）は、「確実に勝ちに行くことを目指しました。それぞれがしっかりと自分の仕事をこなしたことで、優勝することができました。特に、京都大学戦で5勝できたのは、チームとしての強さが出たと思います」と笑顔で喜びを話しました。

「第1回立命館大学杯
子ども将棋大会」を開催

9月16日、びわこ・くさつキャンパスで滋賀県在住の子どもたちに将棋の面白さを知ってもらい、将棋を通して礼儀や集中力、決断力を身につけてもらおうと「第1回立命館大学杯子ども将棋大会」を開催しました。大会は、県内から集まった小中学生24名が予選リーグ、決勝トーナメントを戦いました。また、北村桂香さん（産社4）や石本さくらさん（総合心理1）ら本学に在学するプロの女流棋士の指導対局もあり、子どもたちは大会と並行して学生、女流棋士らから手ほどきを受けました。



CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

問い合わせ先：広報課
075-813-8146

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

滋賀県への恩返し
体育会所属学生1,150名が地域貢献活動

8月2日、体育会本部を中心とした体育会に所属する約50団体の学生1,150名が、滋賀県

大津市の琵琶湖湖岸で滋賀県及びNPO法人国際ボランティア協会（ivusa）との共催で、外来水生植物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動を行いました。オオバナミズキンバイは、琵琶湖や内湖、河川、水路などの水際に生育する水陸両生の多年生の植物で、外来生物法の特定期間外来生物に指定されています。大津市や草津市、瀬田川などでも確認され、生育面積を拡大し、漁業や生態系への被害が深刻化しています。学生たちはお揃いのTシャツを着て、汗を流しながら約1時間、作業に取り組みました。

ウィルチェアーラグビーで、
障害者スポーツを「知る・見る・体験する」
イベントを開催

9月23・24日、産業社会学部の学生40名で組織する「ウィルチェアーラグビー・サポート・プロジェクト（以下、WCRP）」が、大阪いばらきキャンパスにて「ウィルチェアーラグビー地域交流イベント」を開催しました。

WCRPIは、ウィルチェアーラグビー（障害者が車椅子で競技するラグビー）を通して、障害者スポーツの魅力や普及に向けた課題を社会へ広く発信することを目的に、2017年4月に発足しました。学生らは、一般社団法人日本ウィルチェアーラグビー連盟が主催するウィルチェアーラグビー日本選手権・予選の運営マネジメント、ラジオ放送を通じた地域社会への情報発信、そしてウィルチェアーラグビーを多くの方々に知ってもらうための地域交流イベントなどの企画から運営までを行いました。



「オープンキャンパス2017」を開催

8月5・6日、衣笠、びわこ・くさつ、大阪いばらきの各キャンパスで、「オープンキャンパス2017」を開催しました。天候にも恵まれ、トータル26,137名の高校生とその保護者らが参加、盛り上がりを見せました。

全体企画として全15学部の学びの特徴や模擬授業、留学・就職・課外活動など外の活動についての紹介、キャンパスツアー、学生や教職員による個別相談会など多彩なプログラムを実施。参加した高校生からは、「大学で学ぶイメージが湧いた」「受験勉強をますますがんばろうと思った」などの感想が寄せられました。



健康寿命を延ばし クオリティ・オブ・ライフ(QOL)を 高めるための 運動プログラムを考案

伊坂忠夫・スポーツ健康科学部学長と順天堂大学の木南英紀・学長特別補佐らの研究グループは、このほどロコモティブシンドローム(以下、ロコモ)対策のための運動プログラムを共同で考案し、WEBサイト外部ファイルで公開しました。

ロコモは手すりにつかまらないう階段を上れない、足腰が痛いなど、関節や筋肉といった運動器の機能が低下した疾患で、高齢者などその予備軍も含め、日本国内に約4,700万人いると推定されており、早急な対策が課題となっています。

研究グループは、子どもから大人、シニアといった3世代別に区分された3種類の3分間エクササイズ「ACTIVE 5」を考案。このエクササイズの振り付け動作は、運動

生理学の知見から順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科(内藤久士・研究科長)の町田修一・先任准教授と、舞踊家であり、モダンバレエを基礎にした独自のダンス体操を指導している立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)の増田晶子・客員研究員(シアーハピネス代表)が担当しました。



東京大学 スポーツ先端科学研究拠点との 連携協定を締結

8月25日、東京大学スポーツ先端科学研究拠点(拠点長・石井直方)と立命館大学総合科学技術研究機構スポーツ健康科学研究センター(センター長・田畑 泉)は、人的・知的資源の交流と物的資源の活用を図り、スポーツ医学・科学および健康科学研究を進展させるとともに、その成果を広く活用することによって、人々の健康増進やスポーツ文化の発展に寄与することを目的とした連携協定を締結しました。

今回の連携協定締結により、両大学による分野横断型の研究を推進するとともに、これまで専門的知識とされてきたスポーツ健康科学を人々の健康増進に役立てることで、健康長寿社会の実現に貢献していきます。



東京大学の石井直方拠点長(左)と伊坂忠夫副センター長(右)

東近江市議会と政策科学部および 政策科学研究科が 連携協力協定を締結

9月8日、滋賀県の東近江市議会と政策科学部および政策科学研究科は、議会改革や議員資質の向上のための連携協力に関する協定を締結しました。

本協定の締結により、政策科学部および政策科学研究科は、東近江市をフィールドとした実践的な教育・研究活動、院生の議員インターンシップの派遣など、東近江市議会と交流し、活動に関わることで学部生・院生の成長や教育研究の発展を目指します。

協定締結に臨み重森臣広・政策科学部長・政策科学研究科長は、「地方議会と大学は、その社会的使命を異にしますが、それぞれの立場から今日的な課題に接近し、相互に刺激し合い、そのことを通じて市民の福祉向上、地域社会の活性化に双方が貢献できることを大いに期待しております」と話しました。



河並義一議長(左)と重森臣広政策科学部長・政策科学研究科長(右)

アメリカン大学(ワシントンD.C.)と ジョイント・ディグリー・ プログラム実施のための 協定を締結

来春、国際関係学部の新設される、学士課程(学部)レベルでは国内初となるジョイント・ディグリー・プログラムを実施するための新学科「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」が、文部科学省より設置認可が下りたことを受け、9月11日、ワシントンD.C.に本拠を置くアメリカン大学

との間で、ジョイント・ディグリー・プログラム実施のための協定を締結しました。

アメリカン大学で行われた式典には、在アメリカ日本国大使館から島田丈裕公使、森藤桂子一等書記官、立命館大学から吉田美喜夫・学長、君島東彦・国際関係学部長、中戸祐夫・国際関係学部副学部長、アメリカン大学からはシルヴィア・パーウェル学長、スコット・バス筆頭副学長、国際学部(School of International Service)のクリスティン・チン学部長代行、パトリック・ジャクソン副学部長、ローズマリー・シンコ学部長補佐らが出席し、新しい門出を祝いました。



シルヴィア・パーウェル学長(左)と吉田美喜夫学長(右)

スポーツ庁の日本版 NCAA創設事業に採択

9月14日、大学における専門人材の育成や先進的モデル事業を展開することを目指した、平成29年度スポーツ庁委託事業「大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA)創設事業(大学スポーツ振興の推進)」に採択されました。

今回の採択事業では、「大学スポーツの価値向上」を目標とし、大学スポーツアドミニストレータを新たに配置する取り組みを進めます。具体的には「大学横断的組織として関西コンソーシアムの検討」、「スポーツ活動と学修活動の両面を高度化に資する取り組みの支援」、「地域社会との接点」、「スポーツ分野における学産官連携」、「スポーツ活動の見える化、応援文化醸成の取り組み」など5つの事業を展開する予定です。

古気候学研究センター 中川毅教授が 「講談社科学出版賞」を受賞

古気候学研究センターの中川毅教授が、著書『人類と気候の10万年史 過去に何が起きたのか、これから何が起るのか』で「第33回講談社科学出版賞」を受賞しました。この賞は、国内で刊行された一般向けの科学書のなかからすぐれた著作を選ぶもので、中川教授は、本著で過去の精密な記録から気候変動のメカニズムに迫り、人類史のスケールで現代を見つめなおしました。中川教授は、「これからも、自分の研究を軸にした発信を続けることができたらと思っています」と、受賞の喜びを話しました。



中川毅教授(左)と授賞者(右)

平成29年度の司法試験に 立命館大学から21名が合格

平成29年度の司法試験の結果が発表され、大学院法務研究科(法科大学院)修了者から21名が合格しました。合格者数は、前年と同じく西日本私立大学1位、全国私立大学5位、全国13位でした。和田真一・法務研究科長は、「今後、充実した司法修習を経て地球市民法曹として法曹界などにおいて大いに活躍されることを祈念しております。法科大学院は、教育内容・方法・学習環境の一層の改善を進め、また、修了後の継続的学習を含めて、より丁寧に行き届いた教育・指導を行うよう努めたい」と話しました。

2017年度前期卒業式 学位授与式を挙行

9月23日、朱雀キャンパスで、吉田美喜夫・立命館大学長をはじめ学園役職者などの出席のもと、2017年度前期立命館大学卒業式・大学院学位授与式を挙行しました。

午前、午後の二部に分かれて行われた式典では、立命館大学男声合唱団メンルコールの校歌斉唱の後、卒業生のご父母らが見守るなか、卒業証書・学位記、修士・専門職学位記を授与し、今年度前期の卒業生、学部430名、大学院160名の巣立ちを祝福しました。



2017年度後期入学式を挙行

9月25日、朱雀キャンパスで2017年度後期立命館大学・大学院入学式を行い、39の国と地域から304名(学部学生83名、大学院生221名)の新入生を迎えました。



持続可能な社会の実現に向けて 学生主催で Sustainable weekを開催

10月1~6日、飢餓や貧困、環境問題など地球規模の課題について考えるイベント「Sustainable week」を、びわこ・くさつキャンパスで開催しました。このイベ

ントはSustainable week実行委員会がSDGsの達成に向けた現代社会の課題解決・持続可能なキャンパスのモデル構築のために主催し、学部やクラブ・サークルの枠を超えた交流・連携を進め、持続可能なキャンパスモデルを目指したものです。

太陽光発電を使った再生可能エネルギーライブ(アコースティックギターサークル)や廃棄する食材を使用した0円食堂(Ritree)、琵琶湖の外来魚をフライにして提供する取り組み(haconiwa)など、25のクラブ・サークル団体がそれぞれの個性を発揮し、「持続可能な開発目標(SDGs)」にそれぞれ向き合い、できることを実践しました。



オーストラリア国立大学とデュアル・ディグリープログラムに係る協定を締結

10月2日、オーストラリアの首都キャンベラに拠点を置くオーストラリア国立大学(以下、ANU)と立命館大学とは、卒業時に2つの大学からそれぞれの学位を取得できるデュアル・ディグリー(学部共同学位)に係る協定を締結しました。

本協定は、2019年4月に大阪いばらき



ANUのブライアン・シュミット学長(左)と吉田美喜夫学長(右)

キャンパスに設置構想中の「グローバル教養学部(以下、GLA)」とANUのCoral Bell School of Asia Pacific Affairsとの間で運営されるデュアル・ディグリーに関するもので、GLAはこれを教育課程の全面に組み込んだ日本初の学部となります。また、このプログラムは、両大学の学生が相互に行き来する日豪間初の取り組みです。

科学研究費補助金(科研費)で5年連続の採択金額「私立大学3位」、採択件数「私立大学4位」を獲得～本学過去最高の564件が採択～

10月10日、文部科学省が発表した「平成29年度科学研究費補助金(科研費)の配分」において、採択金額ランキングで慶應義塾大学、早稲田大学に次ぐ私立大学3位(西日本私立大学1位)、採択件数ランキングでは私立大学4位(西日本私立大学1位)となりました。2005年からの12年間で本学の採択金額は約2.3倍、採択件数は約2.6倍に伸びており、社会学・環境社会システム・社会福祉学・経営学・知能ロボティクス・スポーツ科学などの細目について、新規採択件数が上位にランクインしています。

本学は、科研費の採択件数増大・採択内容の高度化はもとより、大学院と研究との高度な連携、女性研究者支援の積極的な展開、多様な産官学連携活動、そしてグローバル研究大学としての研究基盤強化など、大学研究の高度化に向けて様々な角度から取り組みを進めています。

日本初、日本フードサービス協会と包括協定を締結

10月17日、日本の外食産業を統括する業界団体である一般社団法人日本フードサービス協会(以下、JF)と、食の分野で実践的な行動力を発揮できる人材を育成するための教育プログラムの実施を目的とした

包括協定を締結しました。JFによる高等教育機関との協定締結は、今回が初めてとなります。

本協定は、食に関わる深い教養に裏打ちされた高度なマネジメント人材の輩出を目指し、2018年4月にびわこ・くさつキャンパスに開設する「食マネジメント学部」における産学連携を推進し、食関連分野でイノベーションを実現する中核的マネジメント人材の育成を目的とするものです。具体的には、食ビジネスの現在を学ぶ「総合講義科目」でのゲストスピーカーの招聘をはじめとした教育プログラムの実施、現地・現場の経験、フードサービスに関する学術研究の推進、産業界のマネジメント人材育成などを通じて、食関連分野における教育・研究の高度化の実現を目指します。



吉田美喜夫学長(左)と菊地唯夫日本フードサービス協会会長(右)

Club X Circle

01 ROCK COMMUNE

オリジナルをやりたければ ROCK COMMUNE

学生時代、「くるり」が所属したクラブとしても知られる、オリジナル曲中心に活動する軽音楽サークル「ROCK COMMUNE」。その出生は定かではないものの、「京都の若者の音楽シーンを盛り上げたい」という結成当時から熱い想いは脈々と受け継がれている。

かつて100名を超える部員が在籍していたこともあったという現在は30名余り。時代は変わってもジャンルやカラー、音楽性、経験にとらわれない自由な雰囲気は昔のままで、いくつもバンドを掛け持ちするメンバーが多いのもほかの音楽系サークルにはない特徴となっている。

半数近くが大学まで音楽・楽器経験を持たない初心者だとい、「素人でも入りやすく、人数が比較的少ないのでライブにも早い段階から出られるなどのメリットがありま

す」と滝沢仁希さん(産社3)。オリジナルをやりたければROCK COMMUNEというのが今ではすっかり定着している。

主な活動として、月に一度のライブステージのほか毎年ROCK COMMUNEとしてオムニバスCDを製作している。学園祭への出演、CDに採用されるにはオーディションを勝ち抜かねばならず、「みんなバンドを掛け持ちしながら、それぞれ力を入れて取り組んでいます」と滝沢さん。ジャンルが競合しない分、何を基準に曲を選ばいいのかが難しく議論的になることも。そうしたなかでも互いを認め合い、切磋琢磨しながら、それぞれが成長する。それこそがROCK COMMUNEの真骨頂でもある。門戸が広いだけに最近では留学生の部員も多くなった。自由な雰囲気に国際色が加わることで、その音楽性はさらに広がりを見せている。



02 マンドリンクラブ

定期演奏会を目指し練習に励む

17世紀にイタリアで発祥した撥弦楽器といわれる「マンドリン」。日本には20世紀初頭に伝わったとされ、どこか儂げで独創的なその響き、音色に魅せられた人も多かったろう。マンドリンクラブは、もともと軽音楽部の一部門だったが、有志が集い1963年に独立。黒澤明監督の『姿三四郎』をはじめとする数多くの映画音楽や流行歌を手掛けたことでも知られる作曲家でマンドリニストの鈴木静一氏を技術顧問に迎え指導を受けるなど隆盛を極めた。1960～70年代はマンドリンブームなどとも相まって150名を超える部員が所属していたそうだが現在は23名で、うち7割前後が女子部員という構成となっている。

マンドリンはもちろん楽器演奏が初めてという部員も多いといい、「高校時代や大学の新勸で演奏を聞いてやりたいと思った部員やほかの楽器から乗り換えたなど入部の動機は

様々」と部長の佐藤瑛資さん(文3)は笑顔で話す。

普段の練習は週2～3回の合奏と週1回のパート練習が中心。毎年12月頃に定期演奏会を開いており、5年に一度、OB・OGを交えた記念コンサートを実施するなど交流も活発で、「記念コンサートには毎回30名以上のOB・OGの方が参加されます」と佐藤さんが話すように、つながりも深い。次回は2018年7月18日に京都府の長岡京記念文化会館での実施を予定している。

「ほんわかとした雰囲気、少人数のクラブらしく学年関係なく仲がいいのが特徴。他校のマンドリンクラブと比べても19世紀の曲や日本人が作った曲など伝統を重視しています」と佐藤さん。流行を追うのではなく、あくまで人の心に響く演奏が部のモットーでもある。



校友消息 (判明分)

<p>叙勲2017年秋</p> <p>■旭日重光章 山中諄氏 (65 経済) 元南海電鉄会長兼CEO</p> <p>■旭日小綬章 安道光二氏 (67 経済) 日本病院薬品協会理事長</p> <p>中川弘氏 (70 経営) 元ラジオ関西社長</p> <p>■旭日双光章 坂本充氏 (64 法) 元大阪府議会議員</p> <p>藤井正氏 (70 理工) 元京都府建設業協会副会長</p> <p>■旭日単光章 森村義明氏 (62 法) 京都府食肉生活衛生同業組合理事長</p> <p>荒木邦彦氏 (63 理工) 平安製作所取締役会長</p> <p>■瑞宝重光章 永井ユタカ氏 (教職員校友) 元大阪高裁判事</p> <p>■瑞宝中綬章 太田周氏 (63 理工) 宇都宮大学名誉教授</p>	<p>■瑞宝小綬章 山田俊夫氏 (64 法) 元宇治少年院長</p> <p>大倉潔氏 (66 法) 元奈良県生活環境部長</p> <p>塩見司郎氏 (67 経済) 元京都府出納管理局長</p> <p>井上正己氏 (71 理工) 元神戸税関総務部長</p> <p>原田一男氏 (75 法) 元大阪地裁事務局長</p> <p>■瑞宝双光章 団幸雄氏 (64 法) 元京都府土木建築部理事</p> <p>土方義道氏 (68 文) 保護司</p> <p>■瑞宝単光章 中尾光孝氏 (61 理工) 元尼崎市消防団分団長</p> <p>福井信雄氏 (64 理工) 元警察庁技官</p> <p>八木忠彦氏 (70 経営) 京表具製造業従事者</p> <p>富田藤雄氏 (75 法) 元米原市消防団長</p>	<p>危険業務従事者叙勲2017年秋</p> <p>■瑞宝双光章 正徳孝夫氏 (69 経済) 警察功労 (元警視正)</p> <p>道下孝一氏 (69 理工) 警察功労 (元警視正)</p> <p>荒川三郎氏 (73 経済) 消防功労 (元京都市消防司令長)</p> <p>■瑞宝単光章 村上重夫氏 (85 法) 矯正業務功労 (元法務事務官)</p> <p>岡本章三氏 (72 産社) 消防功労 (元京都市消防司令長)</p> <p>褒章2017年秋</p> <p>■黄綬褒章 岡本守氏 (76 経営) 北星信用金庫理事長</p> <p>平野二三記氏 (77 経営) のぞみ信用組合理事長</p> <p>竹田知史氏 (77 経営) 蒲郡信用金庫理事長</p> <p>■藍綬褒章 今出川行雲氏 (60 文) 教師師</p> <p>中村大蔵氏 (69 文) 補導受託者</p>	<p>当選</p> <p>穀田恵二氏 (69 文) 衆議院議員選挙当選</p> <p>長尾敬氏 (86 経営) 衆議院議員選挙当選</p> <p>古本伸一郎氏 (87 法) 衆議院議員選挙当選</p> <p>山花郁夫氏 (89 法) 衆議院議員選挙当選</p> <p>泉健太氏 (98 法) 衆議院議員選挙当選</p> <p>三木常照氏 (80 法) 長岡京市議会議員選挙当選</p> <p>西條利洋氏 (12 理工) 長岡京市議会議員選挙当選</p>	<p>萬谷久司氏 (71 経済) 元民生・児童委員</p> <p>山田悟氏 (75 理工) 郡上市消防団長</p> <p>中田仁史氏 (78 経済) 島牧商工会長</p> <p>山口信氏 (80 産社) 高槻市消防団分団長</p> <p>■計報</p> <p>浅野勲氏 (60 理工) 神奈川県校友会相談役</p> <p>滝川孝治氏 (61 法) 八幡市校友会元会長</p> <p>■就任 (内定含む)</p> <p>辻理氏 (65 理工) サムコ株式会社 代表取締役会長兼社長兼CEO</p> <p>高井嘉津義氏 (77 産社) 大阪信用金庫 理事長</p> <p>足立正之氏 (85 理工) 株式会社堀場製作所 代表取締役社長</p> <p>能勢広宣氏 (86 経営) クリヤマホールディングス株式会社 代表取締役CEO</p>
--	---	---	---	--



祝！食マネジメント学部新設。大阪で世界のランチを味わう講座を持って10年余りになります。おいしい食事が幸せをもたらす光景は世界共通。前号に登場された朝倉教授がまだ国立民俗学博物館におられたころ、フィールドワークについてインタビューさせていただいたことが。2017年も、2018年2月に開催される韓国・平昌冬季五輪1年前取材に始まり、年内に冬の味覚フグ・カニ・クエの三大王制覇グルメ取材。先日、2018年の明治維新150年に沸く山口県取材で萩の松下村塾やリニューアルされた明倫館を訪問。日本の変革期に有能な人材を多数輩出した松下村塾が、世界遺産として認定されるに至った歴史的背景を今いちど考えさせられた。母校に新設される食マネジメント学部、軽々と異文化と交流させる食の力を学問として学ぶ第1期生に大きな期待を寄せる卒業生の一人です。(高橋英子)

編集室から

何代も続く料理方としてお勤めの先輩校友とお話する機会を得た。常の事とは別に現在、嚙下食の改良に取り組んでおられるという。今までは三大栄養素を分けて作っても白いゼリー状のものになってしまっ、食が進まなくなっていたとの事。日本食はメニュー豊富であるからそれに親しんだ方には変わらない味覚のものは飽きてしまうであろう。そこで取り組んでおられるのが、例えば寿司ならおジャコをペーストにして寿司飯を再現したり、焼鮭の皮の部分の色付け・味覚付けも工夫されておられるのだそう。果たして食の増進につながったとの事。伝統とは、伝燈という言葉の新しい火を注ぎ続ける大事さであると言われるが、来年4月設置の食マネジメント学部にも根付いて欲しいと期待しているところである。(乾)



BOOKS FOR BOOKS

～立命館の本活～



2013年4月から2017年9月末までに**4,079名**の方々から**212,065冊**の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。引き続き、校友のみなさまのご協力をよろしく願い申し上げます。

どのような仕組みですか？

以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

- ISBNのない本
- 百科事典 ● コンビニコミック ● 個人出版の本
- マンガ雑誌 ● 一般雑誌

※上記の本が混入していても、費用の負担などは生じません。

手続きの方法は？

- ① 書籍を段ボール箱に入れる。
- ② 電話 (バリューブックス ☎ 0120-826-292) かWEBで集荷を依頼する。

※お電話の場合は右の「申込書」をキリトリ線に沿って切り取り、必要事項をご記入のうえ段ボール箱に入れてください。

※5冊以上であれば送料は無料です。

詳しくは **WEB** をご覧ください。

お問合せ先 学校法人立命館 総務部 寄付事務局 TEL：075-813-8110 (平日 9:30～17:00)

お申込みに關してのご注意

買取額は市場価格等を考慮して(株)バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや値段がつかないこともございます。お申込みに際しては、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～申込書

1. 本申込書記入者(以下、私)は、私が所有する書籍等を株式会社バリューブックスに引き渡し、その売却代金を学校法人立命館が受領することをもって、私からの寄付とするものであることを確認します(現物寄付ではありません)。
2. 私は、株式会社バリューブックスおよび学校法人立命館に対し、理由を問わず、本件書籍等の返還、および買取相当額の支払いを請求いたしません。
3. 私は、株式会社バリューブックスと学校法人立命館が、本申込書に記載された氏名等の個人情報をも本プロジェクトならびに学校法人立命館の活動目的のみを使用することを了承します。

年 月 日 箱

学校法人立命館 理事長 森島朋三殿
学校法人立命館の設置する学校の教育および研究の充実のために本物品の売却代金を寄付します。

フリガナ

お名前

生年月日 西暦 () 年 () 月 () 日

ご住所 (〒 -)

電話番号

E-mail @

寄付目的

本学との関係 (任意)

- 卒業生 卒業 西暦 () 年 卒業校・学部 ()
- 教職員 元教職員 在校生父母・卒業生父母
- お子様の在籍校・卒業校 ()

今後、本学の各種行事等のご案内を差し上げる場合がございます。 案内等を希望しない希望されない方は右記にチェックをしてください。

事務局記載欄

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

第112回 ミニ企画展示

原発設置をめぐる 住民投票実現までの軌跡

1960年代に東北電力が設置計画を発表し、2003年に正式に撤回をした巻原子力発電所(新潟市旧巻町)は、住民投票の結果を受け計画が白紙となった事例のひとつです。本展では、巻原発設置をめぐる住民運動の軌跡を写真と年表で振り返ります。それぞれの立場で運動に取り組む住民の姿や町の様子から、民意が社会を動かす力になることを改めて考える機会となれば幸いです。

主催 巻原発住民投票から20年 明日の巻地域を考える会



街中を行進するデモ隊 先頭は地主会の皆さん(1981年8月28日) 撮影：速藤寅雄

第113回 ミニ企画展示

第23回京都ミュージアムロード参加企画 占領期の京都

1945年8月、敗戦により大日本帝国が崩壊し戦時体制が解かれるとともに、戦争に関わる証拠の隠滅や占領軍の受け入れ態勢の調整がはじまりました。同年9月、京都に米軍が進駐し、西日本を中心とした占領の拠点が京都に置かれました。本展では、収蔵資料を中心に占領期の京都の様子を伝えます。



1947年8月、京都にて、休戦中の英連邦軍の兵士たちが映画ポスターについて話している様子。(オーストラリア戦争記念館所蔵)

会期	
第112回 ミニ企画展示	原発設置をめぐる住民投票実現までの軌跡 2018年1月13日(土)～1月28日(日)
第113回 ミニ企画展示	第23回京都ミュージアムロード参加企画 占領期の京都 2018年2月10日(土)～3月25日(日)

※常設展示(地階・2階)は、上記展示期間以外でも見学することができます。

開館時間	
午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)	
休館日	
月曜日(ただし、2/12は開館)、2/13(火)、3/22(木)	
観覧料	
一般400円(350円)／中・高生300円(250円)／小学生200円(150円) ()は20名以上の団体料金/障害者手帳等をお持ちの方(介助者1名を含む)は無料	

立命館大学国際平和ミュージアム
常設展示 特別展
校友招待券
有効期間
2018年1月25日(日)まで
(校友 8名/入館無料)
校委会(1/27発行)
No.271